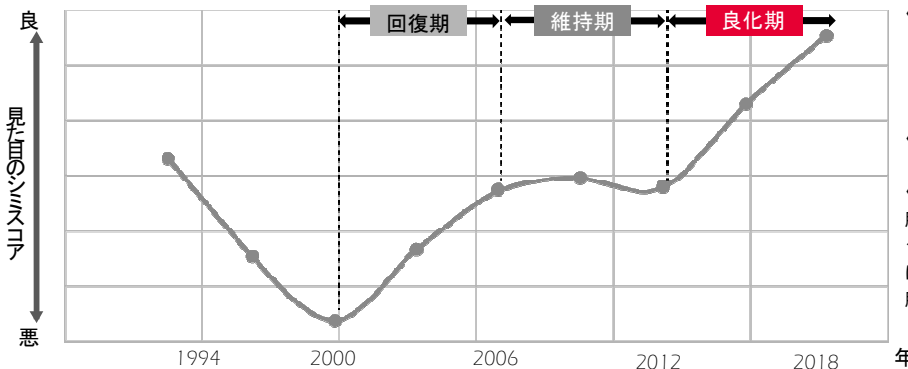


2012年から2018年にかけて「見た目のシミの状態」が良化傾向へ 20代女性の“美白美人”がさらに増加

株式会社ポーラ（本社：東京都品川区、社長：横手喜一）は、これまでに蓄積してきた全国のスキンチェックデータの分析結果から、2000年を境にV字変化した20代女性の「見た目のシミ」が2012年～2018年にかけてさらに減少し、良化傾向へと変化し続けていることを発見しました。気象庁データによると近年、紫外線量が増加し日最大UVインデックス8以上の日が有意に増加しているにもかかわらず、20代女性の肌が良化期に入っています。この事実は、30年もの間47都道府県の肌データを見続けてきたポーラが所有する約1,800万件（2019年1月現在）の肌のビッグデータ解析から捉えたものです。

20代女性の“見た目のシミ”の状態変化



◆ポーラスキンチェックデータより
（1998年までは全顔で評価。1998年以降は頬を中心に評価。1998年と1999年の平均値を同じと仮定して、1999年以降は補正值を使用。）

◆n=924,421件

◆ポーラスキンチェックとは
肌表面のミクロな情報から肌全層を推定する次世代型肌分析システムを実用化した独自のスキンチェックとカウンセリングにより、項目別の肌状態と未来のエイジングのしやすさなどを肌分析センターで科学的に分析。今回はその分析の一部を使用しています。約1,800万件(2019年1月現在)のデータを蓄積。

【考察】「見た目のシミの状態」が良化した要因

◆美白[※]ケア意識の高まり

美白[※]市場は概ね拡大傾向が続いており、処方化技術が年々向上し、UVケア市場も拡大しているため、シミケア、UVケアの重要性が消費者に広く定着し、意識が高まっていると考えられます。また、UVケア品の使用率は20代平均で83%を超えています。（2ページデータ参照）

このほか、UVケア製品の多様化により使用シーンや用途に合わせて1人あたりのUVケア製品の使用本数が拡大したことや、日傘や帽子、手袋、衣類に用いられるUVカット素材（99.8%以上カット等）が年々進化していることも影響していると考えられます。

◆お手入れ意識の高まり

InstagramやtwitterなどのSNSで日常的に情報収集するため、10代前半からスキンケアやメイクに興味を持ち、美肌の女性に憧れ、目標にすることで個人の肌のお手入れレベルが上がっていると考えられます。またニキビを防ぐ意識が高まり、ニキビを発症した場合でもクリニックでの治療や一般用医薬品でのケアによりニキビを悪化させないようにするため炎症性の色素沈着（シミ）も減少していると予想できます。これらのことから、20代女性においてもはや美白[※]であることは「前提」「標準」スペックであり、UVケアにとどまらず、素肌を美しく保つことや、輝くような透明感を目指して自分に合ったケアをする傾向にあると考えられます。

※メラニンの生成を抑え、しみ、そばかすを防ぐ

【参考】美白[※]コスメ市場

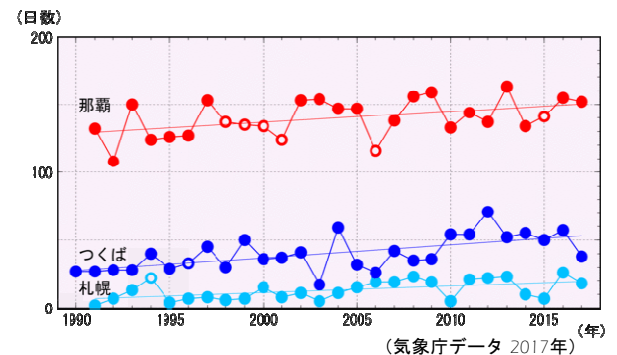
年	2013	2015	2017	2018 (見込)
販売額（億円）	238	254	286	304
伸張率（%）	96	102	115	122

【参考】サンスクリーン市場

年	2013	2015	2017	2018 (見込)
販売額（億円）	317	340	378	411
伸張率（%）	100	107	119	130

（富士経済 調べ）

【参考】日最大UVインデックスが8以上の年積算日数の経年変化



（気象庁データ 2017年）

【掲載の際のお問い合わせ先】

ポーラお客さま相談室（フリーダイヤル）TEL 0120-117111

参考資料

日最大UVインデックスが8以上の年積算日数の経年変化（ページ1 下部グラフ参照）

環境省の「紫外線環境保健マニュアル」では、UVインデックスが8以上の場合、日中の外出を控えるなど特に配慮が必要としている。国内3地点（札幌、つくば、那覇）では、観測を開始した90年代初め以降、日最大UVインデックス8以上の日が有意に増加しており、増加は10年あたり札幌で7日、つくばで13日、那覇で8日となる。

UVインデックスとは…紫外線が人体に及ぼす影響の度合いをわかりやすく示すために、紫外線の強さを指標化したもの。

<女性の化粧行動・意識に関する実態調査2017 スキンケア篇より>

■スキンケアを行っている目的上位10項目（基数：スキンケア現実行者対象15～74歳 計1661人のデータより一部抜粋）

	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
	肌に潤いを与える	紫外線から肌を守る	肌にハリ・弾力を与える	シミを防ぐ、改善する	今後の肌の老化を防ぐ	全体的に肌をきれいにする	肌の健康を守る、健康にする	肌の老化を緩やかにし、できるだけ肌の若さを保つ	肌アレを防ぐ、改善する	しわを防ぐ、改善する
	56.4	40.8	38.7	36.9	35.5	35.4	35.4	33.2	33.0	29.6
15～19歳	ニキビ・吹き出物を防ぐ、改善する	肌アレを防ぐ、改善する	肌に潤いを与える	全体的に肌をきれいにする	紫外線から肌を守る	肌の健康を守る、健康にする	毛穴を目立たなくする	肌にハリ・弾力を与える	敏感肌を守る	メイクのノリを良くする
n=129	58.9	55.0	49.6	47.3	41.9	34.9	34.9	33.3	27.1	27.1
20～24歳	ニキビ・吹き出物を防ぐ、改善する	肌に潤いを与える	肌アレを防ぐ、改善する	全体的に肌をきれいにする	毛穴を目立たなくする	メイクのノリを良くする	肌の健康を守る、健康にする	紫外線から肌を守る	肌にハリ・弾力を与える	肌のホワイトニング（肌の美白）
n=140	55.7	52.9	50.7	36.4	35.7	35.0	33.6	33.6	30.7	24.3
25～29歳	肌に潤いを与える	ニキビ・吹き出物を防ぐ、改善する	全体的に肌をきれいにする	肌アレを防ぐ、改善する	毛穴を目立たなくする	紫外線から肌を守る	肌の健康を守る、健康にする	シミを防ぐ、改善する	肌のキメを細かく整える	今後の肌の老化を防ぐ
n=142	51.4	47.9	44.4	40.8	36.6	35.9	34.5	32.4	31.7	30.3
30～34歳	肌に潤いを与える	肌アレを防ぐ、改善する	全体的に肌をきれいにする	肌の健康を守る、健康にする	今後の肌の老化を防ぐ	肌にハリ・弾力を与える	シミを防ぐ、改善する	紫外線から肌を守る	ニキビ・吹き出物を防ぐ、改善する	毛穴を目立たなくする
n=143	58.7	43.4	39.2	38.5	36.4	35.7	35.0	32.9	32.9	32.9
35～39歳	肌に潤いを与える	全体的に肌をきれいにする	シミを防ぐ、改善する	紫外線から肌を守る	肌の健康を守る、健康にする	肌アレを防ぐ、改善する	肌にハリ・弾力を与える	肌の老化を緩やかにし、できるだけ肌の若さを保つ	毛穴を目立たなくする	肌のキメを細かく整える
n=140	50.7	42.1	38.6	36.4	32.9	32.9	30.0	27.9	27.1	27.1
40～44歳	肌に潤いを与える	シミを防ぐ、改善する	肌にハリ・弾力を与える	紫外線から肌を守る	肌の健康を守る、健康にする	全体的に肌をきれいにする	毛穴を目立たなくする	今後の肌の老化を防ぐ	肌の老化を緩やかにし、できるだけ肌の若さを保つ	しわを防ぐ、改善する
n=137	59.1	49.6	43.1	43.1	40.9	38.7	38.0	37.2	37.2	36.5

（ポーラ文化研究所 調べ）

20代のスキンケアを行っている目的の1位・2位が「ニキビ・吹き出物を防ぐ、改善する」となっている。健やかでトラブルのない素肌を目指していることが読み取れる。

■スキンケアアイテム使用率（基数：スキンケア現実行者対象15～74歳 計1661人のデータより一部抜粋）

	洗顔料	化粧水	クレンジング（メイク落とし）	カセット焼け止め、UV	乳液	クリーム	美容液	シートパック	マッサージ料	はかないもの（シート状）	その他	平均反応個数	
n=													
全体	1661	93.9	90.2	82.6	78.7	63.0	61.0	60.9	50.7	25.3	23.9	8.7	6.39
15～19歳	129	98.4	92.2	76.7	86.8	70.5	62.0	59.7	55.8	31.0	26.4	2.3	6.62
20～24歳	140	95.7	92.9	88.6	85.0	71.4	59.3	58.6	66.4	38.6	32.9	2.9	6.92
25～29歳	142	95.8	93.7	92.3	81.7	73.2	52.1	57.0	62.7	25.4	24.6	3.5	6.62
30～34歳	143	93.7	92.3	92.3	79.7	63.6	50.3	56.6	58.0	23.1	25.9	8.4	6.44
35～39歳	140	95.7	91.4	85.7	81.4	63.6	50.0	55.7	50.0	22.9	22.9	7.9	6.27
40～44歳	137	92.7	87.6	86.9	79.6	57.7	58.4	62.8	54.0	21.9	22.6	15.3	6.39
45～49歳	141	93.6	88.7	83.0	80.1	60.3	61.7	59.6	53.2	19.1	25.5	10.6	6.35
50～54歳	140	94.3	84.3	81.4	72.9	54.3	55.7	55.0	43.6	22.9	23.6	15.0	6.03
55～59歳	140	96.4	89.3	85.7	82.9	64.3	73.6	71.4	52.1	27.1	27.1	11.4	6.81
60～64歳	142	92.3	85.9	71.8	78.2	54.2	68.3	64.8	45.8	21.1	16.9	13.4	6.13
65～69歳	134	89.6	94.0	76.1	64.2	60.4	71.6	57.5	27.6	25.4	18.7	3.7	5.89
70～74歳	133	88.7	90.2	65.4	71.4	62.4	70.7	72.9	37.6	26.3	19.5	9.0	6.14

（ポーラ文化研究所 調べ）

20代のUVケアアイテムの使用率は20代前半が85%、20代後半が82%と他世代に比べて高い。

さらなる「美白美人」を目指すためのお手入れアドバイス

美白[※]を阻害する要因には、紫外線、物理的刺激（花粉や大気汚染物質による影響も含む）、さらにニキビなどの皮膚疾患などの刺激が挙げられます。これらの刺激によりメラノサイトが活性化し、不要なメラニンが増加します。また肌が乾燥すると角層の保護力が低下し、外部の刺激を受けやすくなります。不要なメラニンを増やさず「美白^{※1}美人」を目指すためにお手入れをしましょう。

①UVケア

通年で行うことが大切です。塗り残し・塗りムラがないよう、注意が必要です。

▶【参考】塗り残し、塗りムラを防ぐ日やけ止めテクニック

<https://www.youtube.com/watch?v=xYWktdAtAg0>



②保湿ケア

外部の刺激から肌を守るために、丁寧な保湿ケアが大切です。お手入れの最後に、化粧品の浸透感(角層まで)を高めるように手のひらの面を使って、肌を包み込んであたためます。手のひらそのものを、まるでパックのように密着させ手のあたたかさと共にすみずみまで行き渡らせるようにします。

▶【参考】肌バイタル[※]に着目した温化パック術

<https://www.youtube.com/watch?v=AmDRHybDNFU>



③肌に付着した花粉や大気汚染物質などは刺激のもとになります。刺激をうけて肌が敏感に傾かないような丁寧なケアが必要です。

▶【参考】肌荒れ大気^{※3}に着目した洗顔法

https://www.youtube.com/watch?v=k_dHzp7ZbCY



④美白^{※1}のお手入れの3大ポイント：「こすらない」「すりこまない」「使用量を守る」

意外と知られていないのが物理的刺激による不要なメラニンの増加。3つのポイントを意識してお手入れしましょう。

■シミケアにはポーラの「美肌予報」も合わせてチェックしてください。

<https://www.pola.co.jp/special/bihadayoho/index.html>

「20代女性の“見た目のシミ”の状態変化」
これまでの考察（ページ上部グラフ参照）

【回復期】

1990年代に流行した「小麦色の肌」や「顔黒」の一時的なブームが過ぎ、1980年代以降クローズアップされるようになった肌への紫外線対策意識が定着したことで、2000年前後を境に美白[※]肌へと回復していることがわかりました。

UVケア意識の定着は、UVケアコスメ市場が一気に拡大傾向にあったことから読み取ることができます。

また、美白有効成分の研究や処方技術の進歩が、新たな美白^{※1}理論やサンスクリーンを誕生させたことも美白[※]肌回復の背景にあると考えられます。

【維持期】

紫外線量が増加傾向にあるにも関わらず、2006年前後以降、見た目のシミの状態は横ばいを維持しています。

これは、UVケア意識の高さが背景にあると考えられます。UVケアコスメ市場も引き続き拡大傾向にあり、美白^{※1}化粧品においても、単なる白さだけでなく、輝くような「透明感」を謳う製品が増加しています。

2013年1月からは、UVカット技術の進化により、「PA+++」よりもカット効果の高い「PA++++」表示製品が登場。

さらに、近年、UVケアアイテムは化粧品にとどまらず、手袋、帽子、スポーツウェアなど、日常的に着用する衣類の素材にもUVカット機能をほどこした製品が注目を集めています。今後もさらにUVケア意識は高まっていくと考えられます。

※1 メラニンの生成を抑え、しみ、そばかすを防ぐ

※2 肌が自ら美しくなる力、ポーラがつけた名称

※3 ポーラの造語。「肌荒れ大気」の「大気」とは、大気汚染物質などのこと